

滋賀県民経済計算からみた滋賀県経済の状況について

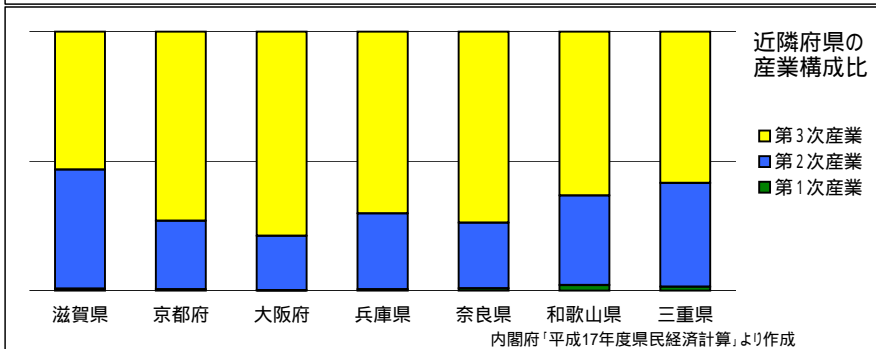
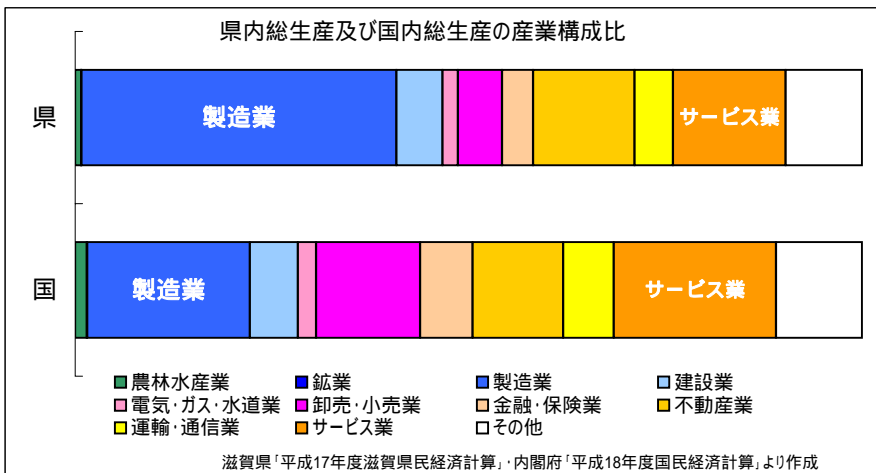
県民経済計算は、国民経済計算体系（通称93SNA）に基づき、内閣府の示した「県民経済計算標準方式」に準拠して推計したものです。今回の統計情報では、この県民経済計算から滋賀県経済の特徴を概観することにより、県民経済計算のさまざまな側面から得ることができる情報を取り上げています。ここでは、その一部を紹介します。

1. 県内総生産から見た産業構成

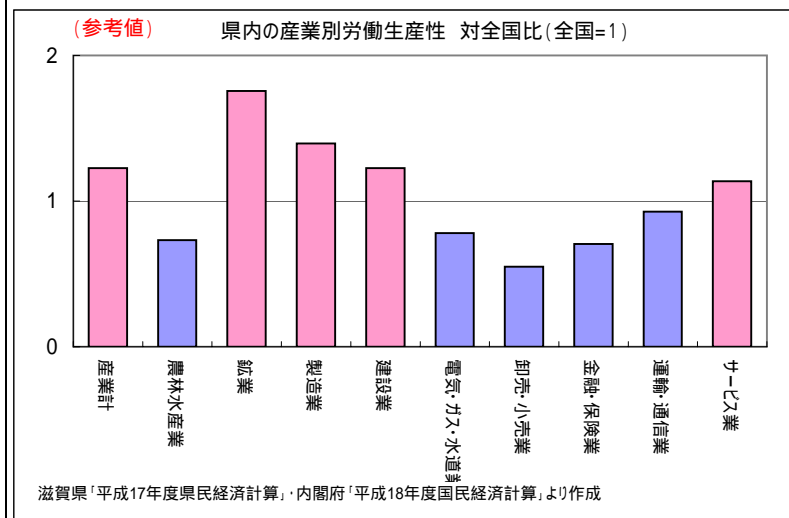
・滋賀県の県内総生産によって表した産業構成は右上图のとおりです。最も構成比が高いのは製造業、次いでサービス業です。

・滋賀県の製造業は、県内総生産の約40%を占めています。日本の国内総生産に製造業が占める割合は約20%なので、約2倍を占めていることとなります。

・近隣府県の産業構造と比べても、滋賀県は第2次産業（鉱業、製造業、建設業）が総生産に占める割合は高くなっています。これは、製造業の伸びを主要な要因として、平成16・17年度の実質経済成長率、平成17年度の名目経済成長率がそれぞれ全国1位だった三重県・和歌山県より、大きな割合となっています。



2. 産業別労働生産性と滋賀県の産業構成

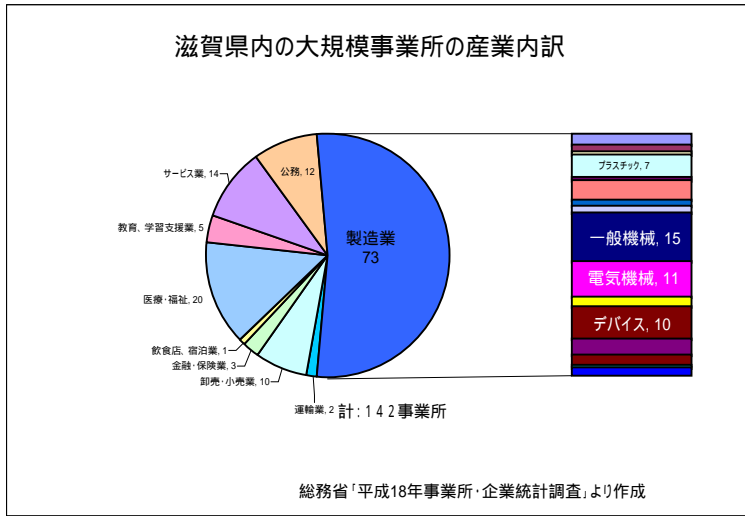


・産業ごとに、全国の労働生産性を1として、滋賀県内の産業ごとの労働生産性を表したのが左のグラフです。

・主要産業である製造業のほか、鉱業、建設業などの分野で生産性が全国を上回っています。

・以下では、滋賀県の主要産業である製造業をとりあげます。

3. 県内製造業の特徴と労働生産性



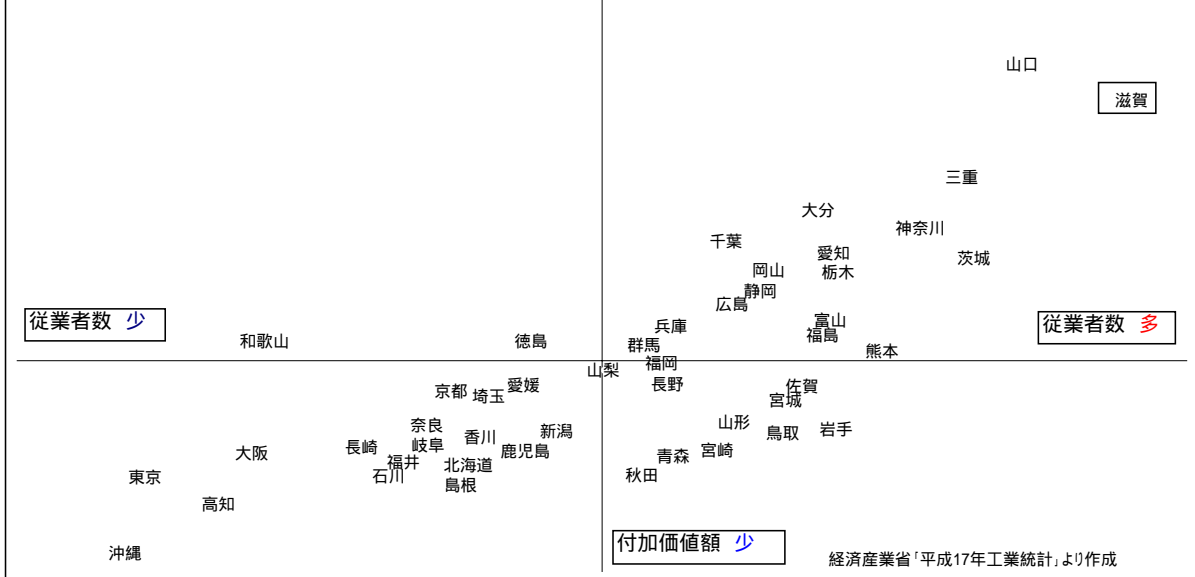
・滋賀県内の主要産業である製造業の特徴は、事業所規模が大きいことです。

・県内にある大規模事業所の51.4%が製造業で、そのなかでは電気機械と一般機械が多くなっています。(左図)

・1事業所当たりの付加価値額も多くなっています(下図)

・大規模事業所は労働生産性が高くなるため、製造業の労働生産性を引き上げる一つの要因となっていると考えられます。

製造業1事業所あたりの従業者数および付加価値額



4. 製造業中分類ごとの生産性

・滋賀県では製造業の24分類のうち、15で労働生産性が全国を上回っています。右図では、この15の労働生産性の対全国比(全国=1)と、それぞれが県内製造業に占める付加価値の構成比を図にしたものです。

・分類名が で囲んである産業は、大規模事業所の割合の低いものです。このうち化学工業は、資産の効率的な活用と高い付加価値率などにより高い労働生産性を実現し、県内の製造業が生み出す付加価値のうち、最も大きな割合を占めています。

・資本集積を生かす大規模事業所だけでなく、中小の事業所も高い生産性を発揮することで、滋賀県の製造業全体の生産性も高められているのではないかと考えられます。

(なお、本編では、財務諸表分析に用いる各指標を工業統計から算出することで、各中分類の労働生産性の特徴について考えています。)

